

新善光寺 寺報 北 縁

2023年5月 Vol. 52

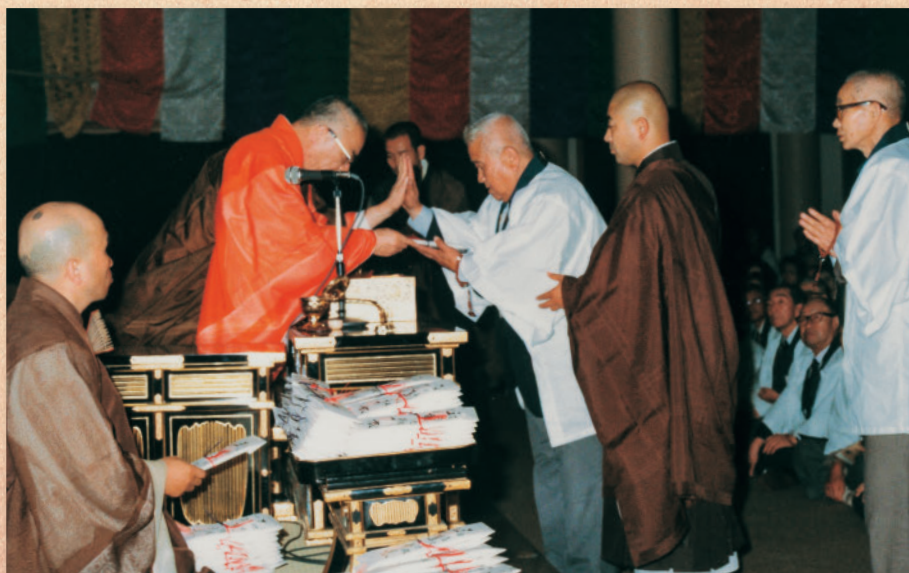
ほくえん



近い将来の
開催に向けて

昭和 28 年開催
(1953 年)

特集「浄土宗の奥義“五重相伝”について」



昭和 56 年開催
(1981 年)

ぎよき えいたいし どうほうよう
御忌・永代祠堂法要のご案内

ご参列いただけます。

6月18日(日) スケジュール

- 午後1時～ 合葬墓前にて法要
(納骨されている全精霊位様をご回向します)
- 午後1時45分～ 講話(本堂にて)
- 午後2時30分～ 御忌・永代祠堂法要(本堂にて)

本堂でおこなう講話・法要につきましてはYouTubeにてライブ配信もおこないます。

「御忌」とは簡単にいうと浄土宗を開かれた法然上人の法事のことです。

命日は1月25日で、現在はあたたかくお参りしやすい4月に全国のお寺でおこなわれておりますが、新善光寺では北海道の気候を考えて6月におこなっております。

阿弥陀様を信じて南無阿弥陀仏と唱えれば必ず救済を受けて平和な毎を送り、浄土に生まれることができるという万民救済の教えを広め残してくれたことに感謝する法要です。

また、併せて永代祠堂法要もおこなっております。本堂須弥壇の上に位牌札をお祀りし、毎日順繰りに回向しております。この法要ではお祀りしている全ての精霊様を一斉に回向・供養いたします。

新善光寺では随時、永代祠堂を受け付けております。

永代祠堂
一霊位様 二十万円



本堂での法要



〈永代供養合葬墓〉
ご納骨された後
は、お寺で管理
いたします

講 話

大阪大通寺 住職 太田 寛隆 師 「五重について」



〈進呈〉法要に参詣いただいた各家様には『五重相伝のすすめ』をお渡します。講話の内容が、より頭に入ってくるかと思えます。



昨年に引き続き新善光寺住職のいところである太田寛隆師が、コテコテの大阪弁で皆様の前でお話をいたします。

表紙のタイトルの通り、「五重相伝」について実際の映像も使いながらわかりやすく、簡潔にお伝えします。



〈特別展示〉

新善光寺所蔵の法然上人絵伝を、この6月18日に一日限りで展示します。

今年は昨年よりさらにパワーアップした内容になっております。



婦人会新会長に小村様が就任！

5月23日に開催の明照婦人会総会で佐藤マサイ様が退任され、新たに小村知江子様が会長に就任されることが承認されました。

佐藤前会長は大室スミ元会長のあとを受け、明照婦人会並びに札幌市仏教連合会婦人会の活動に大いに尽力してくださいました。この場を借りて感謝申し上げます。

婦人会では各種法要や催しを通じて、お寺とのつながりや会員様相互の親睦を深めております。コロナ禍により制限していた活動も徐々に再開しております。どうぞ、ご興味のある方はお問い合わせください。お気軽にご参加いただければ幸いです。

〈事務：角田まで〉



総会で挨拶される小村新会長

五重相伝とは

「五重相伝」とは檀信徒の皆様が浄土宗の教えである念仏信仰を深めるための「修行」となります。浄土宗だけにしかないものです。

具体的には、お釈迦様や法然上人の教えとはどのような教えか、またそれがどのように伝わってきたのかなどの「教育的なこと」と、お焼香の仕方・念仏の称え方・浄土宗信徒としての心構えなど「実践的なこと」を座学と儀式を通じて体系的にお伝えします。

南無阿弥陀仏のお念仏の真髓を体と心で体得し、味わっていただくための修行であり、浄土宗最高の法要でもあります。

不思議な縁に結ばれて 昨日に変わる我が姿
ま白き衣ころもに身を包み 五重法会えんの筵えんに会う
(五重和讃より)

新善光寺では過去に昭和28年と昭和56年に開催しており、近い将来の開催を検討しております。

昭和28年の時は火災の後の仮本堂でおこないました。これは火災後の離れていった檀信徒の方々を再び新善光寺に来ていただくためと本堂再建へ向けたもので、昭和56年の時は創建100年記念事業の一つとしておこないました。

関西地方では頻繁には開催されており、先代住職の生まれた大阪・大通寺では今年の5月2日から7日にかけておこなわれ、その模様は御忌・永代祠堂法要（6月18日）の時に詳しくお話しいただく予定です。



(昭和56年)

この五重相伝、昔は1週間以上かけていましたが、現在は5日間というところが多いようです。5日間といたしても、どうしてそんなに長いのかとお思いの方もおられることでしょう。家を建てるにも、まず土台から1階、2階と建て上げて行くように、正しく順序を踏んで念入りに積み上げていくのが「五重」の「重ねる」ということの意味です。

他の寺院で実際に参加された方に聞きますと「最初は5日間と聞いて長く、しんどいと思ったが受けてよかった、尊いことでした。」と喜ばれる方がほとんどです。

ご多用のところとは存じますが、人生をより実りのあるものにするために、是非とも開催の時にはご参加を検討していただくことを願っております。

今後もこの五重相伝については色々と記事で紹介させていただきます。



今年の5月におこなわれた様子（大阪・大通寺にて）

テーブル・イス設置や換気、また、すべての日で午後の開始など、参加される方を第一に考えられておりました。



新善光寺開創百年記念 五重相伝会 昭和56年6月22日～25日

団体参拝旅行に行ってきました

4月5日から7日にかけて2泊3日で2015年の長野善光寺御開帳参拝旅行以来、久々にお檀家様と一緒に団体参拝旅行に行ってきました。前回から引き続き参加される方は少数で、初めての方が多く、ご夫婦・姉妹・親子・友人同士での参加など様々で、引率の副住職・立花も含め20名ほどでの旅行でした。

〈初日〉

早朝6時40分に新善光寺に集合してバスで新千歳空港に行き、羽田空港まで飛びそのまま増上寺へ向かいます。非常に暖かい気候で、桜もまだ残っていました。舞楽やお説教を聞いて、いよいよメインの法要開始です。導師は平岸の長専寺様のご住職です。北海道内のほとんどの浄土宗寺院の住職方など200名を超える僧侶の参列は圧巻でした。(法要の様子はYouTubeの増上寺チャンネルからご覧いただけます)

増上寺での参拝を終え向かった先は横浜の山下公園前にあるホテルニューグランドで、チャップリンやベーブ・ルースなど歴史上の偉人も訪れた歴史あるホテルです。外観や内装など皆さん、沢山写真を撮っておられました。夕食は中華街で食べ、美味しい食事にお酒も入り皆さん楽しそうにおしゃべりされていました。



〈2日目〉

午前中は小雨がぱらつく中、東京の歴史ある浄土宗寺院巡りです。まずは世田谷区の奥沢にあります浄真寺様です。閑静な住宅街にあるとは思えない広い境内地で心が落ち着く寺院です。



「九品仏」とも呼ばれ、その名の通り9体の阿弥陀仏像が3体ずつお堂に祀られています。

江戸時代に造立された像で高さは2m80cmで東京都の文化財に指定されています。現在、20年かけて一体ずつ順々に修復中で、それが完了した後にはさらなる文化財指定を受けるのではないかという説明がありました。

次は文京区の小石川にあります傳通院様にお参りに行きました。

徳川家康公の生母、於代の方の菩提寺で、千姫など徳川家ゆかりの女性の墓があります。

昼食は両国国技館近くの割烹「吉葉」、元横綱の吉葉山の宮城野部屋をそのまま店舗にしており実際に土俵もありました。

昼食後は日光江戸村を観て、その後は鬼怒川温泉へ。さらっとした泉質の温泉で、肌もツルツルになりました。夕食はソーシャルディスタンスを考えられた座席配置で、少々寂しい感じもしましたが非常に盛り上がり笑い声が絶えなかったです。

〈3日目〉

まず、日本三大名瀑の一つである華嚴の滝に行きました。雨が降っており霧もかかっていたのでどうかと思いましたが、ばっちりと見ることができました。

そして“家康公ゆかりの地を訪れる”という旅行の主旨で最後のメインは日光東照宮参拝です。「見ざる・言わざる・聞かざる」の三猿は、幼少期をあらわし、良いことは学ぶが、悪いことは「見ざる……」という説明があり、この他にも多くの猿の彫刻があり、誕生・挫折・友情などそれぞれ猿の表情や動きで一生をあらわしています。

国宝の陽明門を通り、御本社でお参りしました。階段が多く皆さん苦勞されていましたが、助け合いながらスムーズにお参りできました。

そして、羽田空港へ向かい新千歳空港まで。新善光寺に着いたのは19時頃、さすがに疲労がたまっている様子でしたが、皆さん口々に「楽しかったわ〜。」とおっしゃっていただいたのが何よりでした。



なかなか泊まりの旅行は行けないという方も多くおられましたので、今年は10月に日帰りバス旅行を計画しますので、是非ご参加いただければと思います。日程や行き先などお盆参りの時にお知らせいたします。



令和5年度 御忌大会 新善光寺 令和5年4月5日 大木山増上寺



〈知恩院での布教を終えて〉

こまき ね きんしょう
駒木根 琴生

札幌の花・ライラックの香りが心地よい5月。5日のこどもの日が私達夫婦の60回目の結婚記念日、16日が私の82歳の誕生日、そして、26日は長男が自らお浄土へいった日…と、様々な想いが巡る5月に、11日より15日迄の5日間、総本山知恩院での輪番布教という光栄な体験が加わった。実に有難い巡り合わせだ。

知恩院は法然上人の「只一心にお念仏に専念せよ」のみ教をを広める為の念仏道場である。7万坪の広大な境内の御影堂（3千人近く収容可能な大殿）と三門は国宝に指定されている。来年は浄土宗開宗から850年の慶賀を迎える。法然上人への報恩感謝を伝えたい。

通算6度目の今回の布教、全13回が指定され、その数に驚いた。まず、多くの御法話の中から選び、原稿に向かった。5回目位迄は順調だったが、その後は進まず、実力の無さに留まり、焦った。そんな時、法然上人のお言葉「一丈の堀を越えんと思わん人は一丈五尺を越えんと励むべし」に背中を押された。つまり、目標は本来より高めに設定しなければ、本来の目標に到達することはできないという意味で、おかげで何とかすべて書き上げた。その後も又、大変でテープに録音し、繰り返し暗記の毎日。完璧でないまま京都へ向かった。そんな私を、大手を広げて迎えてくれたのが三門だ。上にそびえる「華頂山」の額を見上げ、感動で体が震えた。

早朝からの法要の為に、5時30分に集合し、阿弥陀堂で始まり、次に御影堂で行う。終了と入れ違いで私の朝の布教が始まる。主に、知恩院にある和順会館の宿泊者であるが、熱心な一般の方々（5日間続けていらした宮崎の御夫婦）もいる。終えて控室に戻る時、東山よりの「カッコウ」の声にほっとさせて頂ける。次は10時よりの日中布教である。全国からの檀信徒さん達で、時には100人を超えた。中には、メモを取りながらの熱心さに緊張を感じた。以上の午前中の2回の布教は5日間毎日続く。他に土曜日は写経の後の布教の1時間で参加者は70名。京都ばかりでなく遠路の人の参加に感謝した。また日曜法話もあり、大変だった。しかし、懐かしい人との出逢いもあり、私同様に子供に先立たれた方（2名）から喜ばれたり…で、やはり布教冥利を味わらせて頂き私にとって、光栄な有難い体験に深謝したい。

帰宅してから、膝痛も増し、疲れも取れない状況下で、私事ばかりの拙文に赤面のまま…。



“阿弥陀佛と申すばかりを勤めにて 浄土の莊嚴 みるぞうれしき”

我が国の風土と仏法

夏の気配を感じる頃になりました。『徒然草』の第155段に「春暮れて^{のち}後、夏になり、夏果てて、秋の来るにはあらず」とあります。作者の兼好法師は、春が終わって、今日から夏ということではなく、夏が済んでから、その次に秋が来るのではないというのです。春のなかに、すでに夏が潜在しており、また、夏のなかに秋が内包していると説くのです。

この『徒然草』の言葉には、我が国の文化や思想そして心性がよく反映されていると感じます。四季は4つに分類されていますが、それは分断・孤立しておらず、互いに作用し合いながら成り立っています。この関係性は、まさに仏法の説く縁起^{えんぎ}の御教^{みおし}えを思い起こさせます。縁起とは、あらゆる現象は無数の原因や条件が互いに関係し合って成立し、孤立して存在することはできないと教えます。つまり、持ちつ持たれつ^{もちつもちたれつ}の関係ということです。春夏秋冬が互いに影響し合っていて、季節が成り立っているのです。そのような風土に生きる私たちだからこそ、仏法が自然と身に染みて味わえるのかもしれない。頭で考える仏教ではなく、肌身で感じる仏教がここにはあります。

また、季節の移ろいが曖昧な風土は、私たちの日常の人と人との接し方にもあらわれているように思います。白黒はっきりつけない物腰や、言葉には表してはいない微妙な相手の意図を察する文化が、私たちの生活には根付いています。その曖昧な人間関係を構築する手段について、「察する文化が面倒くさい」「はっきりしない言い回しが煩わしい」などの声も耳にします。しかしながら、この我が国特有の曖昧さを重んじる感覚は、互いを思いやるという側面もそなえています。

はっきりしない季節の変わり目に、私たちがこの風土にいだかれて、これからどのような道を歩いていけばよいのか。不寛容な世の中の風潮を物思うとき、兼好法師の言の葉が胸にやさしく響きます。

〈文：立花 俊輔〉



兼好法師旧跡（京都市右京区御室）



京都御苑で咲いていた桔梗（左）と彼岸花（右）

シリーズ 仏事のおはなし

仏さまのおはなし ⑥

前回までは仏教の開祖お釈迦さまについて数回に渡りお話してきました。今回からはお釈迦の仏法の中に説かれる仏さまを順にご紹介していきたいと思います。

北縁47号(令和3年10月号)にご紹介した、如来・菩薩・明王・天の順にお話していきましょう。よかったら、ホームページにて過去の寺報を参照できるのでご覧ください。

◆薬師如来

今回は「薬師如来」のおはなしです。薬師如来の正式名称は「薬師瑠璃光如来」と言い、古来より医薬の仏さまとして信仰され、別称を「大医王仏」とも言います。また、薬師如来も阿弥陀如来と同様にそのお浄土があり、その名は「東方 浄瑠璃世界」またの名を「瑠璃光浄土」と言います。前述のとおり北縁47号では、色々な仏さまのご利益について記載しましたが、一般的に薬師如来は「病氣平癒(特に眼病)」のご利益を頂戴できる仏さまといわれています。そのお姿の特徴としては、左手に「薬壺」を持っています。「薬壺」は、その名の通り薬を入れる(蓋つきの)壺のことです。また、疫病を平癒し、延命するという薬師如来のご利益を象徴する執持物です。奈良時代以前の仏像では、この薬壺を持たないお像もあり、お釈迦さまのお像とよく似ているということがあられるようです。

薬師如来の脇侍は、「日光菩薩」と「月光菩薩」です。脇侍とともに「薬師三尊」としてお奉りされることがあります。阿弥陀如来には、慈悲を象徴する「観音菩薩」と智慧を象徴する「勢至菩薩」の脇侍がいらっしゃいます。

この事と同様に、日光菩薩は日の光を象徴とし、太陽の光のように温かく衆生を照らし、苦の闇を消滅させるといわれます。また月光菩薩は月の光を象徴とし、これはやわらかな月の光のように慈悲の心をもって衆生に接し煩惱を消滅させるといわれています。蛇足ですが、特撮で有名な「月光仮面」の名の由来は月光菩薩より考えられたというお話があるようです。また脇侍とは別に、眷属(従者)として「十二神将」像と一緒に安置することが多い様です。十二神将とは、薬師如来とその信仰者の守護者である12人の神様のことです。十二神将に関しては、後の「天」のおはなしのとき記述したいと思います。

薬師如来の光背(お像の後ろに光明をかたどった装飾物)には「七仏薬師」という薬師如来の化身を像容します。古来、この七尊の仏さまによって息災を祈願することが行われてきたようです。

◆薬師如来の誓願

私たちのご本尊、阿弥陀如来が生きとし生けるもものを救うため四十八の誓願

を立て成就されたことと同じく、薬師如来にもまた誓願があります。「薬師の十二大願」と称する誓願は、薬師如来が菩薩であった時、病の苦しみをやわらげ、長寿を願い、恐怖を除き、衣食などを満足せしめるなどの十二の誓願を起こしてその願を成満し、仏（如来）となったと説かれます。

【薬師如来の十二大願】

- 光明普照（自らの光で世界を照らし、悟りに導く）
- 随意成弁（瑠璃の光を通じて仏性を目覚めさせる）
- 施無尽物（智慧の救いの手だての為、あらゆる物を施す）
- 安立大乘（邪道を正し、衆生を仏法へと導く）
- 具戒清浄（戒律を破ってしまった者をも反省をさせ清らかにする）
- 諸根具足（あらゆる病気・身体的苦痛を平癒する）
- 除病安楽（貧困病などの苦悩を除き心身安楽にし、悟りを援ける）
- 転女得仏（成仏するために男女性区別なく悟りを授ける）
- 安立正見（正しき菩薩行に引き入れ、煩惱を浄化する）
- 苦悩解脱（災いや暴力に苦しむ衆生が解き放たれるべく菩提を援ける）
- 飽食安楽（餓えと渇きに苦悩している衆生の苦しみを取り除く）
- 美衣満足（困窮し寒さや虫刺されに悩まされる衆生に衣類を施す）



この十二の誓願を見てわかるように、薬師如来は阿弥陀如来のように死後の安らぎを与えるということではなく、現世に安らぎを与えてくれる現世利益が特徴の仏さまと言えるでしょう。

◆薬師如来を奉る名刹

薬師如来を奉安するお寺は全国に多数あります。その中で国宝指定のお像を奉られている名刹をご紹介します。

- ・仁和寺（京都）平安時代の座像
- ・神護寺（京都）平安時代初期の立像
- ・薬師寺（奈良）奈良時代の薬師三尊
- ・勝常寺（福島）平安前期の薬師三尊

この他にも国宝の薬師如来像を奉安する名刹があります。

今回は薬師如来についてのお話をしました。病を平癒する現世利益をもつ仏さま。このコロナ禍にお参りするには機縁のある仏さまにも思えます。これからは旅行をする方も増えると思いますが、機会があればお薬師さんの名刹もお参りしてみてください。

清璋寺から

清璋寺 ギャラリー

清璋寺内には、様々な作品（絵画・版画など）を展示しています。

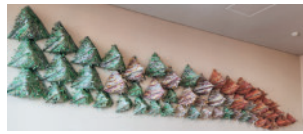
お寺で見る絵画等は、普段とはまた一味違った見え方をするように清璋寺に来られた方は、熱心にご覧になっています。

これらの作品のほとんどは、清璋寺の前身である新善光寺宮の沢別院建立の際に展示する場所を指示し、その場所に合ったものを展示していただいたものです。

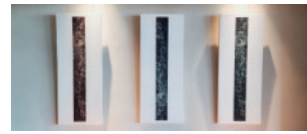
清璋寺にお越しの際は、是非ご覧いただき皆さま一人一人の感覚・感性でその作品を感じていただければと思います。お近くにお越しの際は、是非お寺にもお参りください。



海野阿育 作



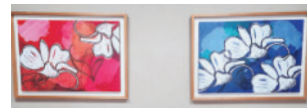
加藤祐子 作



石川亨信 作



山田恭代美 作



山田恭代美 作

清璋寺 札幌市手稲区西宮の沢5条1丁目19-35 TEL 011-668-5110

清璋寺は毎週火曜日を寺院閉館日としております。お参りの際は、お寺にお問合せください。

しろいし幼稚園から

元気に育つ “ほとけの子”

まだ肌寒い4月にしろいし幼稚園の年長組の園児たちが参拝に来ました。

本堂で“お花”と“灯り”をささげ、元気にお歌をうたい、そして僧侶のお話を真剣に聞いていました。

しろいし幼稚園では「ほとけさまの教え」を通じて、“いのちの大切さ”を知り、ありがとう・ごめんなさいが自然と言える素直で優しい「ほとけさまの子ども」を育てています。



学校法人新善光寺学園 **しろいし幼稚園**

〒003-0028 札幌市白石区平和通1丁目南6番16号 URL siroisi-pippara.ed.jp
TEL 011-861-4426 FAX 011-866-0707 E-mail siroisi-pippara@cyber.ocn.ne.jp

慈啓会から

慈啓会ふれあいの郷養護老人ホーム 慈啓会ふれあいの郷生活支援ハウス

ふれあいの郷養護老人ホーム（定員 100 名）と自炊の生活支援ハウス（定員 20 名）は、1973 年（昭和 48 年）に札幌市より経営受託した軽費老人ホーム（B 型）札幌市稲明園（定員 50 名）が老朽化し改築時期を迎えていたことと、介護保険の実施に伴い特養に入所している軽度の入所者の受け入れ先が必要となったこと、過疎地に設置されていた「生活支援ハウス」が都市部にも設置が認められることが検討されていたため、いち早く札幌市に働きかけを行い 2000 年（平成 12 年）11 月 1 日に開設となりました。「ふれあいの郷」の名称は、職員公募により決定されました。

2020 年（令和 2 年）に開設 20 周年を迎えたわけですが、コロナ禍にあったため、集合して式典を行うことが困難でしたので、2021 年（令和 3 年）に行った大規模改修の落成も合わせて 2022 年（令和 4 年）11 月 1 日に、大々的にはいきませんが、簡単な式典と弦楽二重奏のコンサート、お祝い膳を囲み 2 年遅れで周年記念祝賀会を行いました。

開設当初と比べると介護保険が導入され在宅サービスも充実してきたこともあり、徐々に身体的ケアや精神的フォローの必要な入居者が増加してきています。



コロナ終息祈願の
ふれあい神社

さらに、ここ数年はコロナ禍で外出や面会が制限され、家族との交流機会も減り、施設内でも黙食や居室の行き来の制限があり特に新規入居者は新たな交友関係を築く機会もなく寂しい日々を過ごしていたと思います。

コロナ 5 類への移行に伴い、感染対策をしながらもコロナ以前の日常生活に戻り活気のある楽しい日々が送れるよう支援していきたいと思います。

昨年からは、感染リスクの低い、屋外での畑作業や社会貢献活動の一環である地域のゴミ拾い活動を再開しています。今年は雪解けも早かったため、入居者の協力を受け施設の畑を耕しジャガイモを植えました。順調に生育したら秋口には、大収穫祭ができるのではと楽しみにしています。



自炊設備完備の支援ハウス



20 周年記念コンサート



町内のゴミ拾い活動

札幌慈啓会総合相談室のご案内 ☎ 0120-83-8291
専門スタッフが保健・医療・福祉などのご相談に応じます。

お電話受付時間／8:45～17:00(土日・祝は除く)
E-mail info-jk@sapporojikeikai.or.jp

相談無料

当山のお仏像を紹介します⑨

ほうねんしょうにん

法然上人座像

本堂の御本尊にむかって左側（西側）におられるのが、この法然上人です。法然上人（1133～1212）は、浄土宗の宗祖であり、お念仏の元祖です。9歳の時に父と死別した法然上人は、15歳から比叡山で求道の日々を送ります。自身の心をまっすぐに見つめ、私が私のみままで救われる道を、お釈迦さまがお説きくださった経典の中から必死に探し求めました。そして、ついに43歳の時、阿弥陀さまの本願に会い、浄土の御教え・お念仏の御法を発見したのです。このお像は、墨染めの衣を着た法然上人が数珠をくりながらお念仏する様子を表しています。



札幌の浄土宗寺院紹介②

善道寺

豊平公園のすぐ近くにある寺院で、“きたえーる”の場所に以前あった豊平墓地の管理業務を元々はおこなっていました。

開山上人は新善光寺2代目住職の林玄

松上人で現在は堀内上人がご住職をされています。堀内上人は新善光寺でも法務をお願いしておりますのでご存じの方も多いと思います。また、お盆やお彼岸などの大きな法要の時は「維那」という法要の先導役で素晴らしいお声を本堂で響かせています。

平成28年に本堂を建て直し、靴を脱がずにお参りでき、また車イス対応のトイレの設置など参拝される方を第一に考え設計されました。お寺の開放も積極的におこなわれ、ダンス教室やヨガ教室などでも使われているようです。



善道寺 札幌市豊平区豊平4条11丁目5-14

善道寺 札幌

検索

北縁 なんでも Q & A

いつもご質問・感想等のご投稿をいただきありがとうございます。

令和5年は早くも半年が過ぎようとしています。5月8日にはコロナ感染症の分類が5類相当へ変更されましたが、ウイルス自体がなくなるわけではありません。どうぞ自愛の中にお過ごしください。

本コーナーでは、引き続き皆様のご質問を受付けています。お気軽にご投稿ください。

Q 今年、親類のものが亡くなりました。お盆の提灯^{ちょうちん}について教えてください。

A ここでは札幌の一般的な習俗についてお答えします。

お盆は有縁の先立ちし人をはじめ、ご先祖が現世へ里帰り（お迎え）する日とする習慣です。地域によってその期間は異なりますが、札幌圏では8月13日を「迎え盆」、16日を「送り盆」としてご先祖をお迎えします。この際に仏壇^{しょうらい}や精霊棚^{たな}（お盆の祭壇）の脇^{あか}に提灯^{ちょうちん}を飾る習慣がありますが、これはご先祖が里帰りするのに迷わない様に灯り^{あか}をともし、目印になるようにとされています。

盆提灯^{ぼんちょうちん}は新盆^{にいぼん}（初盆^{はつぼん}）の時に飾る提灯と、その後に飾るものとあります。新盆の時に飾る提灯は絵柄のない真っ白なものを準備します。また、お施主の代わりにご親類や知人などが新盆用の盆提灯を贈ってお供えされる習慣もあります。

よくある間違いに、「灯笼^{とうろう}・行灯^{あんどん}」のような形の灯りをお飾りするお宅がありますが、提灯は「折りたたんで使える照明器具」という定義があります。新たにご準備される場合はご注意ください。

Q 先日 YouTube でお寺の法要を視聴しました。ご住職がオレンジ色のお召し物でしたが、お坊さんのお召し物はいろんな色があるのでしょうか。

A 浄土宗では、僧侶の資格^{そうがい}を「僧階」という分限で区別しています。また、法要で着する服を「法衣^{ほうえ}（一般的に衣^{ころも}と呼称します）」といいます。この「僧階」というのは、僧侶となつてからの年数や、宗門に対しての功績などを勘案して、浄土門主^{じょうどもん}（浄土宗で一番位が高いお坊さん）より叙任^{じょにん}される分限のことです。僧階分限によって、法要時に着帯^{ちやくたい}（衣を着ること）する衣の色が「萌黄」「松襲^{もえぎ}」「紫^{まつかさね}」「緋^{むらさき}」の四色に定められています。

当寺の住職が着帯していたのは「緋の衣」です。「緋」は、「濃い赤」「茜色」「火の色」といった定義がありますが、浄土宗でオレンジに近い色で染められることが一般的です。

〈テレビ放映がありました!〉

北海道テレビ放送（HTB）の“イチオシ!!”の取材がありました。「しあわせ散歩」という寺院や神社を起点とした町歩き企画で、なんとスペシャルゲストとして浅田真央さんが来られました。実際にお会いするとテレビで観ていた通りの素敵な方でした。サイン色紙は廊下の掲示物コーナーに飾っておりますので、お参りにお越しの際はご覧ください。

なお、3月13日とその翌週の2回に分けて放送されて、お参り先では“見ましたよ”や“出ていましたね”とのお声もいただきました。



〈お参りの申込や相談などはホームページからでも〉

1周忌や3回忌などの法事、月命日や祥月命日のご供養などのお参りは、新善光寺ホームページの問い合わせページからお申込みいただくこともできます。その他、納骨堂やお仏壇のことなどのご相談もお受けしております。日中なかなか電話できない方や電話ではなかなか言いづらいことなどがあれば、是非ご利用いただければと思います。

新善光寺

検索

編集後記

5月から段々と新善光寺の周りも観光客やお祭りなどの催しでにぎわってきています。

境内はシャクナゲやツツジなど色とりどりの花できれいになっております。お近くにお寄りの際は是非お参りください。

次号は10月発行予定です。寺の情報についてはホームページや各種SNSでも発信しておりますので、そちらでもご確認いただければと思います。寺報のバックナンバーもホームページからご覧いただけます。

(真海)

※新善光寺の日々の情報は各種 SNS にて公開しております。どうぞ、そちらもご覧ください。そしてこの「ほくえん」のご感想もお待ちしております。



ホームページ YouTube

新善光寺寺報
Hokuen 52
北 縁

発行 / 2023年5月発行
発行責任者 / 新善光寺住職 太田真琴

〒064-0806 札幌市中央区南6条西1丁目 [TEL] 011-511-0262 [FAX] 011-511-4706
[ホームページ] <http://s-zenkoj.com> [Eメール] s-zenkoj@crux.ocn.ne.jp